

HDS024-P07

会場:コンベンションホール

時間: 5月25日17:15-18:45

### 糸静線活断層帯南半部（茅野～鯉沢）の変動地形GISデータとそのオンライン公開

### GIS-based tectonic-geomorphological data set and its online release on the southern half of the ISTL active fault zone

杉戸 信彦<sup>1\*</sup>, 鈴木 康弘<sup>1</sup>, 坂上 寛之<sup>2</sup>, 内田 主税<sup>3</sup>,  
糸魚川 - 静岡構造線活断層帯重点的調査観測変動地形グループ<sup>4</sup>

Nobuhiko Sugito<sup>1\*</sup>, Yasuhiro Suzuki<sup>1</sup>, Hiroyuki Sakaue<sup>2</sup>, Chikara Uchida<sup>3</sup>,  
Research Group for ISTL Tectonic Landforms<sup>4</sup>

<sup>1</sup>名古屋大学大学院環境学研究科, <sup>2</sup>株式会社ファルコン, <sup>3</sup>玉野総合コンサルタント株式会社, <sup>4</sup>なし

<sup>1</sup>Graduate School of Environmental studies, <sup>2</sup>Falcon Corporation, <sup>3</sup>Tamano Consultants Co., Ltd., <sup>4</sup>None

「糸魚川 - 静岡構造線断層帯における重点的な調査観測」(文部科学省委託, 2005~2009年度)において, 変動地形グループは, 活断層の分布と個々の地点における変位量, 地形面の分布と年代に関する高密度高精度のGISデータセットを得るため, 1. 活断層と地形面を認定する航空写真判読, 2. ピット掘削やボーリングを含む現地調査, 3. テフラ分析や放射性炭素年代測定を含む編年, 4. 航空写真測量, 5. LiDAR計測, を実施してきた。得られたデータセットに基づき活断層帯全域の平均変位速度分布を求めたほか, ネットスリップ速度分布に換算し, 地震時ネットスリップ量分布や地下のアスペリティの位置, モーメントマグニチュードを見積もった(鈴木ほか, 本発表, 投稿中)。さらに, 活断層情報をWebGISによって閲覧することのできるシステム「糸魚川 - 静岡構造線活断層情報ステーション」を構築した(図参照)。本システムでは, 上記データのほか, 活断層認定の根拠とその位置精度に関する地形学的説明も閲覧することができる。2008年8月25日, 活断層帯北半部(白馬～茅野)について本システムを一般公開した(鈴木ほか, 2009) (<http://danso.env.nagoya-u.ac.jp/istl-gis/>)。南半部についてはこの3月に公開予定である。本発表では南半部の掲載情報について紹介する。北半部に関する公開後の改訂点もあわせて述べる。

-文献

鈴木康弘ほか, E-journal GEO, 4, 1, 37-46.

鈴木康弘ほか, 活断層研究, 投稿中.



第一弾として, 糸魚川-静岡構造線のうち茅野市以北のデータのみを公開しています。このサイトのコンテンツは, 平成17年度にスタートした文部科学省の「糸魚川-静岡構造線活断層帯に関する総合調査観測」の成果の一部です。count:025099 since 2008-8-25

-注

糸魚川 - 静岡構造線活断層帯重点的調査観測変動地形グループ：鈴木康弘（名大）・渡辺満久（東洋大）・澤 祥（鶴岡高専）・廣内大助（信大）・隈元 崇（岡山大）・松多信尚（名大）・田力正好（地震予知総合研究振興会）・谷口 薫（産総研活断層・地震研究センター）・杉戸信彦・石黒聡士・佐藤善輝・中村優太（名大）・内田主税・佐野滋樹・野澤竜二郎（玉野総合コンサルタント）・坂上寛之（ファルコン）

キーワード:変動地形,変位量,平均変位速度分布, GIS,糸魚川 - 静岡構造線活断層帯,活断層情報ステーション

Keywords: Tectonic landform, Amount of offset, Average slip-rate distribution, GIS, ISTL active fault zone, Active Fault Information Station for the ISTL